

神奈川県金融経済概況（2017年6月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は緩やかに増加している。輸出は一部に持ち直しの動きがみられる。設備投資は高い水準で推移している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しており、個人消費は緩やかに持ち直している。この間、住宅投資は基調としては増加しており、公共投資は持ち直している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 緩やかに増加している。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低迷しているものの、国内向けトラックが堅調なほか、国内向け乗用車も新車投入効果により増加しているなど、緩やかに増加している。
- ・ 素材関連は、化粧品や鉄鋼、プラスチック製品を中心に増加している。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器が概ね横ばいとなる中、電子部品・デバイスなどが持ち直しているほか、外需向け基地局通信装置や自動車向け製品が増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が高水準で推移している中、工作機械が増加しているほか、外需向けを中心にはん用機械類が持ち直していることから、増加している。

(2) 輸出： 一部に持ち直しの動きがみられる。

- ・ 北米向けが減少しているものの、中国向けを中心に持ち直しの動きがみられる。

(3) 設備投資： 高い水準で推移している。

- ・ 17/3 月短観における、16 年度の設備投資は、前回調査比上方修正となり、前年を 3 割程度上回って着地する見込み。製造業・非製造業ともに、既存設備の維持・更新に加えて、研究・開発投資や業容拡大を企図した能増投資などがみられている。17 年度については、製造業・非製造業ともに、大幅に伸長した前年の反動から減少計画となっているが、特に製造業で需要好調を受けた能増投資がみられているなど、依然高水準を維持している。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 4 月の有効求人倍率（勤務地ベース）は 1.34 倍と、統計が公表されている 05/2 月以降、最も高い水準となった。一方、3 月の現金給与総額は前年比 ▲0.8%となった。

(5) 個人消費： 緩やかに持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、衣料品の動きに鈍さが残っているものの、化粧品が引き続き好調な中、高額品なども堅調となっており、緩やかに持ち直している。
- ・ スーパー売上高は、横ばい圏内で推移している。
- ・ 家電販売額は、高機能製品を中心に白物家電や季節家電などが堅調なほか、携帯電話も概ね下げ止まっており、緩やかに持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、各メーカーにおける新車投入効果から、小型・普通乗用車が堅調に推移しているほか、軽乗用車も持ち直しており、全体では増加している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 基調としては増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、持家が減少した一方、貸家と分譲戸建てが増加している。

(7) 公共投資： 持ち直している。

- ・ 4月の公共工事請負額は、地方公社や独立行政法人などで増加した一方、市町村や県などが減少したことから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：3月+1.3%→4月+1.5%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：3月1.207%→4月1.203%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：3月+3.0%→4月+3.4%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。